

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.18

ドキュメンテーション



三溪園にて平成 26 年度新入生の皆さんと

■ 学科設立 10 周年を迎えて

日本にオンリーワンのドキュメンテーション学科が鶴見大学文学部に設立され、今年で10周年を迎えました。今年の3月には第7期生が社会への一步を踏み出しました。4月からはドキュメンテーション学会の活動も11年目に入りました。この間に多くの先生方に、学科主任と学会長としてご尽力を頂きました。最初に学科の設立にご尽力された初代の岡田靖教授、次に学科の礎を築かれた二代目の長塚隆教授がそれぞれ2年間、その次に学科の発展に貢献された三代目の原田智子教授が6年間、運営の中心となり活躍されてこられました。そして、本年度4月から四代目として角田裕之が重責を務めさせて頂くことになりました。会員の皆様とともに、学会の行事や活動内容を一層充実させていきますので、どうぞ宜しくお願い致します。本年度は設立10周年の節目の年となります。11月29日(土)には卒業生やこれまでお世話になりました諸先生を招いて「総持学園創立90周年ドキュメンテーション学科設立10周年記念講演会および祝賀会」を実施する予定です。在学生にとって、本学科の成り立ちから今までの歩みと歴史を学ぶ良い機会となります。多くの会員皆様が参加されることを期待しております。

さて、本学科の名称である「ドキュメンテーション」は日本語表示ですが、カタカナなので外来語を意味しています。元の言葉は“documentation”です。鶴見大学

図書館の総合辞書データベースのJapanKnowledgeでドキュメンテーションを検索してみると、小学館『デジタル大辞泉』、小学館『日本国語大辞典』、集英社『イミダス』、自由国民社『現代用語の基礎知識』、小学館『ランダムハウス英和大辞典』に“documentation”若しくは、「ドキュメンテーション」の記述があることが分かります。これらの辞書から、ドキュメンテーションとは、文献や資料、記録物、視聴覚資料等の多様な情報を、収集して整理・体系化し、記録を作り、提供・流通させる技術全体であり、現代ではその実現にはコンピュータ技術を利用する場合も多いとの意味があることが分かります。

本学会では、ドキュメンテーションに関連する書誌学、図書館学、情報学の3分野から構成され、それぞれの分野からドキュメンテーションについて研究することができます。学会で主催する見学会や講演会などの事業も皆さんの研究に役立つ観点から計画されています。今年度の4月には、横浜開港資料館、三溪園の見学会、7月に学会総会と交流会を実施しました。11月に設立10周年記念講演会、翌2月に図書館・博物館等見学会を予定しております。今後も、会員相互の研鑽と親睦交流が大いに図られることを願っております。

ドキュメンテーション学科

角田 裕之 Hiroyuki Tsunoda



ドキュメンテーション学科の授業「特別実習Ⅱ」（学生が海外の大学などを訪問して授業を受けたり、図書館などを訪問して実際に体験学習ができる国際インターンシッププログラム）は、2012年度（昨年度）から新たに設けられた新規授業です。

「特別実習Ⅱ」の授業は、台湾の世新大学と鶴見大学との間で締結された国際交流協定のもとで、実施されています。2013年度のプログラムは、3月4日（火）から12日（水）までの9日間の日程で、ドキュメンテーション学科の5名の学生（1,3年生）が2名の教員（角田教授・長塚教授）と共に、世新大学で実施された国際インターンシッププログラムに参加しました。

学生が早い時期に海外の国を訪問して、共に学び、文化を理解し、他の国の学生との交流を深めることは、学生自身の成長にとっても大切なことで、現在のような情報化社会では必要不可欠なこととなっています。今回の訪問プログラムは、世新大学の情報コミュニケーション学科とドキュメンテーション学科の教員が相談して作られました。

台湾の世新大学とは、2012年7月に世新大学情報コミュニケーション専攻の大学院生、2013年11月から12月にかけては、大学院生と同大学の学部生が国際インターンシッププログラムで、研修に鶴見大学に来学し、ドキュメンテーション学科の学生と授業などを通じて交流を深めていましたので、すでに顔見知りになっていた大学院生とも会え感激していました。

身近に感じた台湾の文化

私が特別実習Ⅱを履修したきっかけは、前回この実習を履修した先輩や同期の勧めでした。私自身、一度も外国に行ったことがなく、治安の面や、言葉・文化の違いなどの様々な不安を感じていました。

実際に台湾に行ってみると、それらの不安が杞憂であったと感じました。台湾の学生から台湾の文化や寺院の参拝方法、台湾で信仰されている神様（中国文化圏の神様）について教わり、遠いと思っていた台湾の文化がより身近に感じられました。

ですが、一つだけ後悔したことがあります。それは、台湾の人と積極的に話をする事ができなかったことです。この実習をきっかけに、少しずつ英語の勉強をして、もっと話せるようになりたいという目標を持ちました。また、台湾についてもっと知りたいと思えるような実習になったと思います。

Hiromi Takahashi 高橋 裕美



身近に感じた台湾の文化

私は今回の台湾実習に参加できたことをうれしく思います。なぜなら、台湾実習では日本では見られないものを見ることができたからです。

訪れた図書館では、プロジェクターで映し出された、利用者の動きに連動して変化する映像や、3D絵本など、視覚的に楽しませるものや、古今東西の有名な人物の書いた、又は描いた貴重書や絵たち、また、故宮博物館では、皇帝への報告書や昔の地形図、他にもテレビの中でしか見たことのない貴重な展示物を見ることができ、ああ、もっと時間があつたらもっとじっくりと隅々まで見ていきたいのになあ、と思いました。

そして、世新大学の方には、とても親切に台湾を案内してもらえました。台湾でとても快適に過ごすことができたのは世新大学の方々と先生方のサポートのおかげです。本当に感謝しています。

Yosuke Matsui 松井 洋輔



密度の濃い9日間

昨年度の特別実習IIに参加しました。研修当時はまだ1年生でした。研修では、台湾の機能的な国立図書館や、歴史上貴重な美術品を60万点以上所蔵する故宮博物館などを見学しました。世新大学の教授先生の講義を受ける機会にも恵まれ、密度の濃い9日間を過ごせたと思います。

渡航当時、私は英会話も中国語にも正直自信がなく、世新大学の皆様とコミュニケーションに不安が残る状態でしたが、世新大学の教授先生、学生の皆様がとても親身に耳を傾けてくださったおかげで、意思の疎通に困る場面は少なかったです。

9日間の台湾研修は、世新大学の教授先生、学生皆様との親密な交流を交えながら、台湾の文化、台湾の図書館事情を知ることが出来ました。この研修に参加したおかげで、国際交流や日本と図書館のあり方を考えるととても貴重な体験ができたことを誇りに思います。

Hori Eri 堀 恵理

国際インターンシップ from 中山大学・世新大学



文学部ドキュメンテーション学科が国際交流協定を締結する姉妹校・中山大学（13名）、台湾・世新大学（8名）合計21名の大学院生・学生を、7月1日（火）から7月15日（火）の2週間、国際インターンシップ学生として受け入れ、学内外で研修が行われました。学生は、鶴見大学のゲストハウスに宿泊しました。

最初の1週間は、ドキュメンテーション学科の学生と一緒に英語で行われた図書館学、情報学さらに書誌学の専門の授業を受け、学ぶと同時に本学の学生との交流を深めました。また、半日ずつ2日間にわたり、本学図書館で長谷川事務長を初め図書館スタッフによる説明と業務体験が実施されました。図書館で開催されていた「ロビンソークルーソーの貴重書」展について、英語英米文学科の菅野先生から講義を受けました。

1週目の後半から2週目にかけては、海洋研究開発機構の地球シミュレータ、国立国会図書館、慶應義塾大学図書館・附属研究所斯道文庫、紀伊國屋書店など学外の施設の見学と体験研修が行われました。また、国際交流センターの支援で、鎌倉や横浜市立中央図書館等の見学を実施しました。土曜日は、ドキュメンテーション学科の総会や懇談会に参加して、鶴見大学の学生と交流しました。



自己紹介しあう学生たち



古典籍を熱心にのぞくインターンシップ生



国立国会図書館にて記念撮影



海洋研究開発機構にて地球シミュレーターを見学

No.9

【カサナテンセ図書館〔ローマ、イタリア〕】

Biblioteca Casanatense, Rome, Italy

ローマ観光の目玉の一つであるパンテオンから1ブロック東に歩き、はじめに交差する道を右折すると、さりげなく図書館の入り口がある。

木のドアを開けると目の前に階段があり、そこから3階まで上がると図書館の受付がある。ここでは、キリスト教の一派ドミニコ会教会の図書室であったものが、1872年からは公共図書館となり、幅広い分野の書籍を集め、総合図書館としての機能を充実させてきた。初期印刷本(インクynaブラ)のコレクションを多く持つ有名な図書館であるそうだが、わたしは専門外なので、その程度はよくわからない。但し、図書室を見れば、それもそうであろうと、肌で納得してしまうところがある。

図書室は、圧巻のひとつ。室内の広さはもちろん、壁一面に書籍が並び、太陽の光は白壁に淡く反射しながら部屋の中に回り込み、。図書室には、聖なる雰囲気と、瞑想を誘い集中を高める孤独な空間が作り出され、暖かくも気品ある広間になっている。昔はこの一室に全ての機能が集められ、書庫や閲覧室としての役割の他、図書整理の作業もこの部屋の中でされていたとのこと。そうすると、この広い部屋も、



図書館の入り口

当時は少し騒がしく、狭く感



図書室全景

閲覧室は四方を木で囲まれたこじんまりした部屋で、10席くらいのスペースは若者でほぼうまっていた。彼らは古書にあたって研究をしているのかと思いきや、この図書室の雰囲気が良いので、カフェ感覚で利用しているとのこと。確かに、石の街ローマの中で、古い木づくりの穏やかな一室で本を開けば、勉強はがぜんはか

どるに違いない。最後に記帳して欲しいといわれたので、それではと愛用のペンを取り出したら、立派な書見台に載る本のようなノートに案内された。一瞬躊躇するも書き出すと、やはり自分の字は場違いに浮いてしまった。体は字にこうも現るかと情けなかった。(大矢 一志)

アクセス：テルミネ駅から40番バスでアルジェンティーナ広場下車、北に200m程で丸いパンテオンの後ろ姿が見える。パンテオン正面からは本文にある道順ですぐ。

開館時間：8:00-19:00(平日) 8:00-13:30(土曜) 日曜日は閉館 8月は開館時間に変更があるので注意

アドレス：Biblioteca Nazionale Centrale di Roma Via S. Ignazio, 52 00186 Roma
<http://www.casanatense.it/>

ドキュメンテーション学科に入学して

4月に本学科の一員となった新生に、前期が終わった時点での感想を聴いてみました。

新しい日常

Chihiro Dan 壇 千尋

私は今年4月に鶴見大学のドキュメンテーション学科に入学しました。まだ数ヶ月しか経っていませんが「この大学には行ってよかった」と私は思っています。好きな本や図書館についての勉強、日々友人たちと楽しく過ごせるこの大学が私は好きです。最初は大学がお寺の敷地内にあったり、行事にお寺に泊まるが含まれていたりでびっくりしましたが、終わってみると楽しかったです。座禅体験がとてもいい経験になりました。

また、私は大学に2時間かけて来ています。その通学時間を読書に費やせるので、大変ですが頑張ることができています。日々提出物に追われていますが、私は毎日が楽しいです。ドキュメンテーション学科に入学してよかったと思います。これからも頑張っていきたいです。

人生の学び舎

Yuki Ishida 石田 裕貴

大学生活も三ヶ月が経ち、前期終了を間近に控えた七月の中旬。今日までの大学生としての時間は毎日が新鮮で休む暇も無く、極めて濃密且つ充実した日々であった。

図書館司書を志し、勉学に励む毎日は多忙の一言に尽きる。しかし、新たに学ぶ知識・教養は私の今後の人生の良き糧となると信じている。ある教授は課題の存在意義について、こう述べていた。「皆さんに自分で調べる癖をつけてもらうため」と。社会人は与えられた仕事を自分で考えて処理しなくてはならない。学生のように誰かからの命令をあおぐだけでは駄目なのである。私は課題を通して、そう学んだ。

大学で学ぶべきことはまだ数多くある。鶴見大学を「人生の学び舎」として、これからも日々精進していきたい。



新しい場所で

Natsumi Ishihara 石原 夏実

私がこの大学に入学して3ヶ月近くが経ち、少しずつですが大学生活に慣れてきました。しかし、入学した当初のころはとても不安でした。なぜなら高校生ときから、高校の先生たちに「大学は高校とは全然ちがう。」「留年も当たり前がある。」等といろいろ言われていたからです。そのため、「勉強についていけるだろうか」、「90分の授業に集中力が続くだろうか」と不安でいっぱいでした。

しかし、入学してしばらく経つとそのような不安が徐々に無くなっていきました。先生たちは分からないことや気になることに対して、丁寧に答えてくださるのでとても質問しやすい環境です。また、同じ授業を受けている学生たちとも分からないことの相談や協力し合うことができます。授業も自分の興味のある授業なので、90分の長い時間でも集中力を切らすことなく、授業を受けることができます。私は、図書館司書になることが夢なので図書館とパソコンについての勉強を現在頑張っています。また、授業によっては課題の宿題があります。課題は大変ですが、それは自分にとって必要なことです。

まだまだ、慣れないことがあります。これからも大学生活を楽しみつつ将来の夢を叶えるために頑張りたいと思います。

資格
取得

教育実習を終えて

6月上旬、情報科教員免許取得のため、4年生3名が教育実習に行ってきました。
ご協力下さいました実習校の皆様に、厚く御礼申し上げます。

Yasuo Yanagisawa 柳澤 靖夫

6月2日(月)から14日(土)まで、鶴見大学附属高等学校で教育実習を行ってきました。2週間という期間は、始めは長く感じたが、終わってみればあっという間でした。

以前から大変だと思ってはいた、けれど想像以上だった先生方の忙しさの一部を体験し、教師という職業が本当に大変なものであると実感しました。

授業の準備だけでなく、HRや部活動の顧問、生徒指導、外部への対応など、生徒から見える仕事と見えない仕事のギャップの激しさに驚きを感じました。

この教育実習を通して得られた様々な経験を、自分のものとして活かせるよう、これからも日々精進していきたいと思います。

Yuriko Kobayashi 小林 百合子

私は鶴見大学附属高等学校で教育実習を行ってきました。

授業は常に授業時間の何倍もの教材研究が必要で授業後はいつも「もっと時間があれば、もっと教材研究ができていれば」と後悔しました。また、オフィスのバージョンにより操作が違いや何通りもある操作方法を覚えなければいけない点などが大変でした。

2週間という短い時間の中で様々な経験をして、このことを今後活かせたらと思います。

Yui Kitaoka 北岡 由衣

私は中央大学附属横浜中学校・高等学校で2週間教育実習を行ってきました。

授業実習では、高校2年生(6クラス)全ての情報の授業を担当しました。今回授業をした内容は、パスワードの管理方法やコンピュータウイルスへの対処方法等といった情報安全に関するものです。

実際に授業を行ってみると、クラスによって授業中の雰囲気の違い、授業の進み具合が異なりました。そのため各クラスに合った授業を行うことは困難でしたが、クラスごとに話し方や注意の仕方を変えることで対応することができました。

短い期間でしたが貴重な経験を積むことができたと思感しています。

学生の声

MOS (Microsoft Office Specialist) Excel の試験に合格して

Microsoft Office の Excel は、会社でも広く使用されているソフトウェアとのでしたので、受験しようと思いました。毎日1章ずつ、授業で使用しているテキストの解答を見ずに問題文だけを見て、自分で考えて正解を導き出すように勉強をしていき、全ての章が終わったらテキストの付属DVDで模擬テストを毎日1回は必ず受け、自分のできないところを探し、どんな問題が出題されたとしても、絶対に合格できる自信を付けてから受験し合格できました。今後はすべてのMOS (Microsoft Office Specialist) の資格を取ることで、実際に使用する場面で適切にどんな機能を使えばよいかなどの判断力を身に付けていきたいと思っています。

Shou Sakazume 坂爪 翔



■ 4 月 3 日 新入生交流会

オリエンテーションに加えて、新入生交流会を実施しました。新入生に加えて、大学院生や教職員の自己紹介、学内施設の見学も実施しました。



■ 4 月 4 日 新入生ノート PC 貸与

4 年間の学生生活で活用してもらうために、ノート PC を貸与しました。

■ 4 月 5 日 平成 25 年度入学式

ドキュメンテーション学科 11 期生の皆さんが入学しました。入学式後、学科別に教室へ移動し、教職員が挨拶をしました。

■ 4 月 19 日 バス見学会 (横浜開港資料館・三溪園)

横地元である神奈川県を知ってもらう・見直してもらうために、横浜開港資料館と三溪園へ見学に行きました。

■ 5 月 12 日～6 月 23 日 インターンシップ事前授業

夏休み期間、図書館や書店、出版社や色々な企業で実際にインターンシップ生として実習に行く前に、事前授業を行いました。

■ 5 月 19 日・6 月 2 日 パソコン補習

1 年生の前期必修授業「情報機器教育論」で実施しているタイピングテストで補習対象となった学生たちに、タイピングのコツを伝えました。



■ 7 月 12 日 研究室 (ゼミ) 説明会

研究室配属に向けて、3 年生に教員から研究室の説明を実施しました。

■ 7 月 12 日 ドキュメンテーション学科総会・交流会

平成 25 年度の事業・会計報告、監査結果報告、平成 26 年度事業・予算計画が報告されました。その後、OBOG なども参加した交流会を実施しました。

《学科設立 10 周年 !!》

角田主任の巻頭言にもありますとおり、本年度、ドキュメンテーション学科は設立してから 10 周年を迎えます。つきましてはこれを祝し、次のとおりに記念講演会と祝賀会を開催する予定です。詳しくはまた別途ご案内しますが、現役生の皆さんも、OB・OG の皆さんも、ぜひともふるってご参加下さい。

日 時：2014 年 11 月 29 日 (土) 13:00～16:00

会 場：鶴見大学会館メインホール及びセンタープラザ

内 容：記念講演会・講演およびパネルディスカッション・祝賀会など

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第 18 号をお届けします。
- 3 月に行われた台湾・世新大学での特別実習と 7 月に同大学及び中国・中山大学の学生を迎え実施された国際インターンシップとの様子をお伝えします。
- 入学して 3 ヶ月たった新入生の声、資格を取得した上級生の体験談などもお伝えします。

ドキュメンテーション 第 18 号
平成 26 (2014) 年 8 月 23 日 (土)
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3 (〒230-8501)
☎ 045(580)8149 発行責任者：角田 裕之
学科ホームページ：<http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>